

2022年3月期 第3四半期決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ

グループコミュニケーション部 I Rグループ

URL : <https://www.nichirei.co.jp/ir>

営業利益は下方修正するが全体で増収基調は続く

(単位：億円)	第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/2発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	611	30	5%	1,819	111	7%	75%	2,430	175	8%	2,410	20
水産	221	11	5%	537	35	7%	85%	640	9	1%	630	10
畜産	214	-15	-7%	611	-30	-5%	73%	820	-21	-2%	840	-20
低温物流	584	33	6%	1,680	82	5%	75%	2,240	117	6%	2,240	0
不動産	11	-1	-5%	32	-3	-10%	73%	44	-2	-5%	44	0
その他	9	-4	-29%	29	-8	-21%	58%	40	-9	-18%	50	-10
調整額	-57	-2	-	-171	-6	-	-	-214	4	-	-214	0
売上高合計	1,592	52	3%	4,538	181	4%	76%	6,000	272	5%	6,000	0
加工食品	40	-8	-16%	108	-26	-19%	71%	145	-27	-16%	152	-7
水産	8	1	15%	14	8	114%	204%	11	6	111%	7	4
畜産	4	-1	-23%	9	-1	-9%	59%	12	-1	-8%	16	-4
低温物流	44	-0	-1%	122	9	8%	83%	148	17	13%	148	0
不動産	4	-1	-16%	12	-4	-22%	69%	18	-2	-11%	18	0
その他	-2	0	-	-3	-1	-	-	-4	-1	-	-1	-3
調整額	-1	-1	-	-5	-3	-	-	-10	-2	-	-10	0
営業利益合計	97	-10	-9%	257	-17	-6%	78%	320	-9	-3%	330	-10
経常利益	98	-11	-10%	260	-19	-7%	78%	323	-12	-4%	335	-12
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	10	16%	182	12	7%	81%	225	13	6%	225	0

為替レート	2022年3月期	2022年3月期	2021年3月期
	見込	3Q実績	3Q実績
米ドル/円	110.00	108.50	107.60
ユーロ/円	130.00	129.82	120.91
バーツ/円	3.40	3.45	3.42

注：為替レートの実績は1月～9月の期中平均で算出

1. (第3四半期累計)

- ①売上高は、主力の加工食品や低温物流が堅調に推移し増収。
- ②営業利益は、低温物流や水産は好調だが、加工食品のマイナスが響き減益。

2. (通期見込)

売上げは堅調に推移する一方、営業利益は加工食品でのさらなるコストアップやその他の事業（バイオサイエンス）の回復遅れにより下方修正するが、当期純利益は増益を確保する見込。

コストアップへの対応を進め収益回復に注力

(単位：億円)		第3四半期			第3四半期(累計)				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/2発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	611	30	5%	1,819	111	7%	75%	2,430	175	8%	2,410	20
	家庭用調理品	186	6	3%	569	46	9%	74%	765	62	9%	765	0
	業務用調理品	247	13	5%	684	23	3%	74%	930	62	7%	930	0
	農産加工品	50	-1	-1%	153	-1	-1%	75%	205	5	3%	205	0
	海外	94	9	11%	299	39	15%	81%	390	42	12%	370	20
	その他	33	2	8%	113	4	4%	81%	140	5	4%	140	0
	営業利益	40	-8	-16%	108	-26	-19%	71%	145	-27	-16%	152	-7

1. (第3四半期累計)

- ①家庭用調理品は、第3四半期で供給面の制約から一時的にチキン加工品の販売が低下したが、米飯類やおかず類は好調を維持、新商品も順調に推移し増収。
- ②業務用調理品は、チキン加工品や食肉加工品、新商品のミールキットなど中食向け販売が伸長したことや、外食・給食向けも前期を上回り増収。
- ③営業利益は、タイの生産工場において、新型コロナウイルス感染拡大に伴うワーカー不足により稼働が低下したことや、原材料価格、海上運賃の高騰などにより減益。

2. (通期見込)

- ①家庭用・業務用ともに米飯類など主力商品の拡販に加え、個食・アッセンブル・キット商品などのパーソナルユース需要向け商品を拡充し増収を継続。
- ②価格改定を計画的に進めているが、円安の進行に加え、原材料価格や物流コストのさらなる上昇が響き、通期の営業利益を下方修正。

タイの生産工場は3月に通常稼働へ回復見込

(G F P Tニチレイ、スラポンニチレイフーズの稼働回復時期の見通し)

第2四半期時点 (11/2公表)	第3四半期時点の見通し
22年1Q(1-3月) 前年同期並みの生産数量まで回復 (通常稼働の8割) 22年下期 通常稼働へ回復	22年3月頃 通常稼働への回復を見込む

(施策の進捗)

施策	進捗
従業員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・当初想定よりワーカーの確保が進んでいるが、今後の入国制限の解除にも備え、外国人の雇用体制を整備 ・感染対策の徹底に加え、ワクチンの追加接種など変異株への対応を強化
省人化・機械化	<ul style="list-style-type: none"> ・省人化機械は計画通り導入 (今期投資額 6~7億円)、次期以降も計画的に進める
代替生産拠点の活用と整備	<ul style="list-style-type: none"> ・タイや中国で代替生産 (OEM) による調達先を確保 ・商品設計の見直しなど、緊急時に各国でフレキシブルな生産拠点移行を可能にする取組みを継続

国内・海外ともに順調に推移し増収・増益へ

(単位：億円)	第3四半期			第3四半期(累計)				通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/2発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減	
低温 物流	売上高計	584	33	6%	1,680	82	5%	75%	2,240	117	6%	2,240	0
	国内小計	455	3	1%	1,332	15	1%	76%	1,750	28	2%	1,760	-10
	物流ネットワーク	267	-3	-1%	782	-1	-0%	76%	1,030	2	0%	1,030	0
	地域保管	189	6	3%	550	16	3%	75%	720	26	4%	730	-10
	海外	119	25	26%	328	59	22%	75%	445	80	22%	435	10
	その他・共通	9	5	104%	21	7	54%	46%	45	9	25%	45	0
	営業利益計	44	-0	-1%	122	9	8%	83%	148	17	13%	148	0
	国内小計	41	-0	-0%	115	8	7%	85%	135	14	12%	135	0
	物流ネットワーク	15	-1	-4%	46	2	5%	79%	55	4	7%	58	-3
	地域保管	25	0	2%	69	6	9%	90%	80	10	15%	77	3
	海外	6	1	22%	14	3	30%	75%	18	4	28%	18	0
	その他・共通	-2	-1	-	-6	-2	-	-	-5	-1	-	-5	0

1. (第3四半期累計)

- ①国内は、輸入貨物の搬入遅れはあるものの、家庭用貨物の取扱いが引き続き堅調に推移したことに加え、業務改善効果などにより増収・増益。
- ②海外は、欧州で英国のEU離脱(Brexit)に伴う需要増加を着実に取り込み、増収・増益。

2. (通期見込)

- ①国内では、電力料金の増加などコストアップはあるが、保管・運送の一体運営による集荷拡大や前期に稼働した名古屋みなと物流センターの収益改善などにより、増収・増益を見込む。
- ②海外では、引き続き欧州における港湾地区での取扱い拡大に注力し増収・増益を確保。

水産は通期見込を上方修正、畜産は収益改善に注力

(単位：億円)		第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/2発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	221	11	5%	537	35	7%	85%	640	9	1%	630	10
	営業利益	8	1	15%	14	8	114%	204%	11	6	111%	7	4
畜産	売上高	214	-15	-7%	611	-30	-5%	73%	820	-21	-2%	840	-20
	営業利益	4	-1	-23%	9	-1	-9%	59%	12	-1	-8%	16	-4

1. (水産)

- ①需要が回復した海外販売が好調に推移したことや、外食・中食向け魚卵類の取扱いが伸長したことなどにより増収・増益。
- ②第3四半期までの進捗を踏まえ、売上高・営業利益の通期見込を上方修正。引き続き販売状況に応じた適切な調達や採算性重視の販売を徹底する。

2. (畜産)

- ①外食・中食向け加工品の販売に注力したものの、前期好調だった内食需要の反動により国産生鮮品の取扱いが減少し、減収・減益。
- ②通期見込を下方修正するが、第4四半期も中食向け加工品の販売に注力するとともに、国産生鮮品や輸入冷凍品の収益改善に努める。

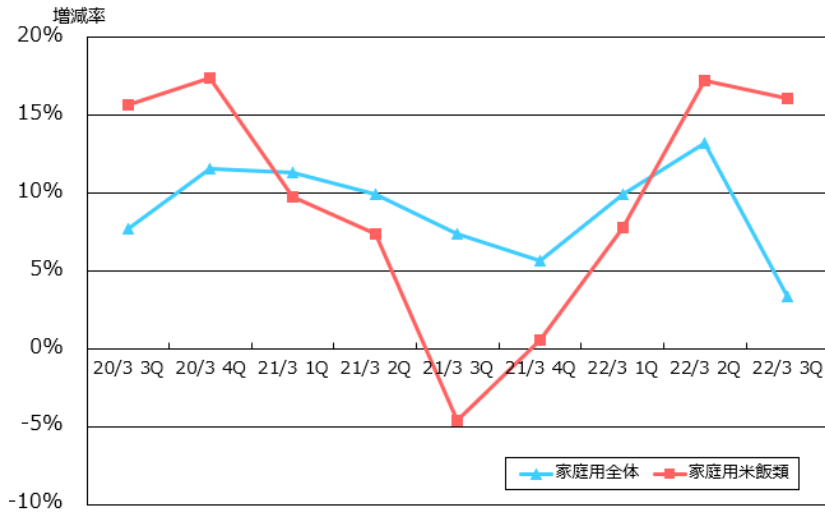
参考資料

営業外収支・特別損益の変動要因

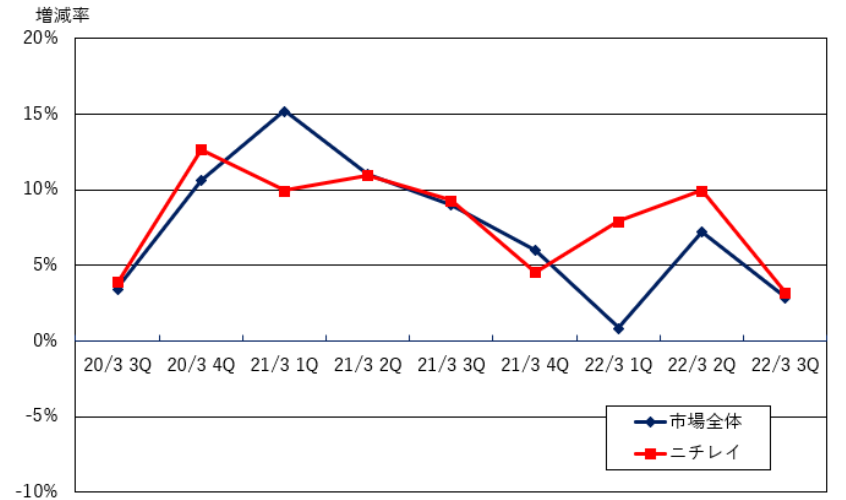
単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第3四半期累計			通 期		
	20/12	21/12	増減	21/3	22/3E	増減
【営業外収支】	5	2	△2	5	3	△2
（主要項目）						
金融収支	1	3	1	1	2	0
持分法による投資損益	3	1	△2	3	1	△2
【特別損益】	△18	13	32	△19	9	28
（主要項目）						
固定資産売却益	0	0	△0	0	0	△0
投資有価証券売却益	0	12	12	1	12	11
固定資産売却損・除却損	△7	△8	△0	△13	△13	0
減損損失	△11	△1	10	△12	△1	11
収用補償金	-	12	12	5	12	6

当社の家庭用調理冷蔵の売上高前年同四半期比の推移



SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移



出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート＝生協店舗を含む）

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。